

■ ■ ■
□本號口繪『奈良の町』はワットマン十
六切大のスケッチに候

□『巴里の河岸店』は大き不明に候得共、
あまり大なるものには有之間敷候

□『湯ヶ島』は昨年一月の寫生にして、
八寸に一尺二寸大に御座候

□『明石の宿にて』は同地滞在の一日、
旅館の床の間の花を寫せしもの、原畫も

あの位ゐの大きに御座候

□次號の原色版は大橋正堯氏の『天城山
麓』、瀧澤靜雄氏の『雨後の夕暮』、及他に
一枚を挿入致すべく候

□日本水彩畫會々友規定の一部を改正致
候。それは、會友提出の批評畫は、毎月

三枚迄の定めなりしを、隔月三枚に改
め、批評の月を一、三、五、七、九、十

一の年六回と致候

□かくの如きは、毎月必ず作品を提出せ
らるゝ、二三の篤志家勉強家にはお氣の
毒に存候へ共、會友の増加と共に、評者

の手許に集まる數非常に多く、爲めに一
ヶ月一日の定めなりしも、只今は中々一
日にて濟み不申、隨而他の仕事に差支を
生じ候間、隔月として二日間を費すこと
に致し候次第、あしからず御承引ありた
く候

□會友諸君のうちにて、多少の手數料、
又は會費を出すにより、三枚以上の繪を
批評して欲しいとの御望みもあれど、元
々繪を見ると申ことは金錢ヅクでは出來
不申、諸君の進歩を喜ぶのあまり、毎月
多忙の中の一日をさきて致せし譯故、右
の如き御望みには、當分應じ兼候間、是
又あしからず御承知下され度候

□巻尾會友名簿は、數月間『みづゑ』誌
代の拂込なき方は、退會と見做し削除い
たし置候、此際引續きお拂込被下候は
ゞ、會友の資格を複し可申候

□本誌前號は、原色版製版の都合上一日
遅れ、製本また一日遅れ候ため、五日に
到りて發送致候。遅着につき御心配相か
け候段恐縮至極に存候

□日本水彩畫會研究所例會は十一月二十七
日開會出陳の繪畫百七十餘點、織田、藤島、
永地、大下諸氏の批評ありて、望月省三、
吉田豐兩氏賞を受けられ候

賀 正

明治四十四年元旦

河合新藏
岡精一
鵜澤四丁
石川欽一郎
眞野紀太郎
大橋正堯
永地秀太
磯部忠一
丸山晚霞
大下藤次郎